

社会福祉施設連絡会 総会

藤井寺市社会福祉施設連絡会の平成30年度総会が、4月11日(水)午後2時から、藤井寺市立福祉会館(北岡1丁目)で、開催された。



総会では、藤井寺市福祉部長の清水哲夫様、藤井寺市社会福祉協議会常務理事兼事務局長の小谷優様にご出席いただき、平成29年度事業報告、会計報告、平成30年度事業計画案、事業予算などを審議、全会一致で承認された。

その後八尾市生活相談支援センターの柿木真紀子主任相談員から、「八尾市社会福祉協議会が行っている地域住民(施設)と協働で行っている事業について」のテーマで講演を行っていただいた。

「あたらしいな」を目指して

奥田益弘会長から、新学期が始まり、地域では各交差点に見守りを行う方々が立ち、温かい良い光景を見る事ができたと挨拶。

生活困窮者自立支援制度が3年経過し、子どもの貧困問題がクローズアップされてきた。地域の子どもたちに無料や低額で食事を提供する「こども食堂」が全国2,286カ所で開かれているとの調査結果を報告され、企業との連携・協働を図りながら、地域力を高め、子どもたちの未来に寄り添っていくために、学習支援の充実が必要であると言われた。

大阪府の中間的就労認定事業所が約100カ所との現状を踏まえ、大阪府社会福祉協議会加盟施設に呼びかけが必要だと痛感、当施設連絡会加盟施設にも積極的に中間的就労に取り組んでいただきたいと言われた。

家計支援については、対象者のお金の使い方に計画性がもてない等の課題が見え、これから支援していく中で、重要な取り組みである。

格差社会の進展により、相当数の困りごとを抱えた人が出ており、施設連絡会会員が実行部隊として、力を合わせて、今年一年の目標、数年先の目標を議論し、作りに上げていきたいと締められた。

来賓挨拶

藤井寺市福祉部部長清水哲夫氏は、藤井寺市行財政計画推進プランにおいて、敬老祝寿金と障害者福祉金が廃止となり、これまで協力あった福祉施設に対してお礼を述べられた。

藤井寺市の福祉計画が実現できるよう行政、施設、地域の皆様と協働連携していかなければならない。と挨拶を締められた。



藤井寺市社会福祉協議会常務理事兼事務局長小谷優氏は、パープルフェスタと共同募金への協力の感謝を述べ、今年度も一層の協力を求められた。市社協は地域福祉の推進を使命とし、職員一丸で果たしていくと結ばれた。

平成29年度生活困窮者自立相談件数の説明

藤井寺市生活支援課松中義成氏から、生活保護制度の等の現状について報告がある。受給世帯等がいずれも減少傾向にあり、原因として、担当CWを増員し、就労支

援強化を図った点が奏功した。市役所全体で相談者を受け止められるよう寄り添って進めていくと述べられた。

事務局から

事務局の前原由幸氏から、平成30年度大阪しあわせネットワーク・地域貢献委員会連携推進事業の活用について①パープルフェスタ②マップ作り③研修を通じた顔の見える関係性の構築④学生とのコラボ。以上に助成金を活用できればより発展的な活動につながると思いを集約し、早急に事務局案をまとめて会員に諮りますと説明。



閉会の挨拶は、徳畑等副会長。管理職のためのマネイジメントブックの紹介をされる社会福祉法人種の会の創始理念を話される。今年度も藤井寺市を盛り上げようと結ばれた。

藤井寺市社会福祉施設連絡会(地域貢献連絡会)

平成30年度は…地域住民による気づきの声を受け止める体制に大きく寄与するなど、藤井寺市における地域福祉の推進に努めていきます。

基調講演

◆基調講演として、八尾市社会福祉協議会八尾市生活相談支援センター主任相談員柿木真紀子氏から、八尾方式の支援について、説明された。



八尾市社会福祉協議会
地域福祉課長補佐
鈴木氏（左）と主任相談員柿木氏（右）

八尾市では、平成26年度に生活困窮者自立相談支援モデル事業を経て、市役所本庁3階に八尾市生活相談支援センターを設置。相談者がもつ課題を的確に分析し、一人ひとりに合った支援計画を立て、自立に導いていくことがこのセンターの目的である。平成27年度の開始から、毎年300件を超え、平成28年度は400件近くになった。相談支援実績の相談経路は、「生活保護からの紹介」が一番多い。「インターネットで見た」も増加。40・50歳代からの相談が多い結果となっている。事例について、中学3年生の相談から、たくさんの家族と同

居し、問題が複合化した事例の紹介がある。一度はゴミ屋敷の状態を改善したが、維持ができず、他機関でその時その時で核になる機関を決め、フレキシブルに対応する会議を持つ中で、わがことまるごと地域共生社会の重要性を述べた。施設の強みを生かした事例の紹介として、中間的就労を通じた支援の協働として、その人なりのペースでの受け入れた結果、仕事人が人を変えると述べた。実践を通し、4つの想いを実現したと紹介がある。

居場所の重要性を再確認し、おとなの居場所「お茶のま」・子どもの居場所・買い物支援・ひまわりカフェをスタート。地域の皆さんと一緒に、夢を語り、夢を実現できる場にもなればと語られた。また、「八尾で暮らしてよかった」と思える地域づくりを心掛け、中間的就労の必要性を学び、これが社協の強みを活かした事業であり、目標はできることを無理なく、みんなで次の世代の担い手を応援していきたいと締められた。

とつくり委員会報告

◆とつくり委員会が、3月22日午後2時から藤井寺市福祉会館1階研修室で開催された。（参加者14名）

平成30年度とつくり委員会の司会担当について、話し合いを行い、持ち回り制を基本とし、書記は大谷委員長を中心に行うことになった。

◆平成30年度とつくり委員会年間計画については、①資源マップについて、藤井寺市協大東岳一氏から説明があり、地域と協働した上で作り上げることと意見がまとまる。

◆他市CSWと交流について、羽曳野市は田原正清氏から、羽曳野特別養護老人ホームが主となり、施設連絡会を3ヶ月に一度開催。ケースの複雑化が顕著となり、保育や障がい施設との連携を深めている。連



絡会は、社会資源の勉強や事例検討を中心に行い、こういう所と連携したら上手くいった点の共有を深めている。社会貢献支援員下永田智子氏から、八尾市と柏原市の施設連絡会についての報告がある。八尾市は特養の施設連絡会をベースとし、成法苑が中心となり、八尾方式を確立し、一ケースに対して、必要があれば、2カ所が同時に動く体制もあり、連携がとりやすく

報連相が徹底している紹介がある。柏原市は社協の相談員が3か月に一度連絡会の開催をしている。今後の方向性として、大谷委員長が、代表で他市の連絡会に参加し、さらに深めたい内容があれば、とつくり委員会に来て頂く方向で調整を行うことになる。

◆事例検討会に入り、藤井寺特別養護老人ホームの地村真人CSWから、事例「無就労で両親と同居の為、生活保護制度を使えない方の生活再建支援」として、尽心庵を活用した事例の紹介があった。30歳代の男性で刑務所を出た後、刑務所にいた過去を仕事先の同僚に指摘され、人間不信となり、自宅と図書館の往復生活の中で所持金が底をつき、自暴自棄になっていた所で、八尾市人権協会のポスターを観て支援につながる。男性は、学校に通い、手に職をつけたい希望があり、また過去を区切りたいとの想いから名前を変えた。尽心庵入居中は、規則正しい生活を送り、デイの掃除に取り組み。健康診断を何年かぶりに受けられ、感謝していた。予定通りの保護費の受給が決定し、退去となる。退去後は、八尾市人権協会の職員が中心になり、気軽に相談できる関係性ができた。生活再建の第一歩が踏み出せた」と報告をされた。

とつくり委員会のご案内

日時 5月24日（水）
14時～15時30分
会場 藤井寺市福祉会館

基調講演から、協働・連携・自主運営がキーワードになる点を再確認。日々の実践の積み重ねをしながら、「あったらいいな」のニーズに込めていくことが求められている。

連絡会のご案内

日時 6月13日（水）
14時～15時30分
会場 藤井寺市福祉会館